

在来作物を売る —商品化への知恵と工夫—

在来作物は地域の宝です。最近、全国的に、地域資源としての在来作物が注目されるようになりました。しかし、在来作物がいかに貴重な資源であっても、ある程度の量の消費が保障されなければそれらの生産は安定しません。すなわち、「売れること」が「保全すること」に直結しているといえます。

在作研公開フォーラム2016では、「在来作物を売る」をテーマに、県内各地域における具体的な取り組みの事例を通して、在来作物の商品化への知恵と工夫について考えてみたいと思います。

日時：2016年12月10日（土） 13:30～16:30

会場：山形大学農学部301講義室

（鶴岡市若葉町1-23）

入場は無料で申し込みの必要はありません。

●開会あいさつ（13:30～13:40）

●事例報告（13:40～15:00）

- ・村山 山形の伝統野菜を販売する！ グリーンショップはらだ 山口美香氏
- ・最上 最上伝統野菜を流通させるしくみ もがみ物産協会 津藤真知子氏
- ・置賜 野菜米沢伝統野菜を食べてもらう Dining海豚元店長 佐藤純氏
- ・庄内 「おしゃべりな畑 実践講座」 - 在来作物案内人たちの挑戦 -
 - ①だだちゃ豆のふりかけ「だだちゃん」 齋藤至氏
 - ②庄内柿のみそ玉 山口美和氏
 - ③升田かぶの生産と販売 村上正敏氏
 - ④外内島きゅうりの生産と販売 阿部正一氏

●休憩（15:00～15:20） 在来作物やその加工品の試食を行う予定です。

●パネルディスカッション（15:20～16:25）

「在来作物を売る - 商品化への知恵と工夫 - 」

パネリスト

コーディネーター

事例報告発表者

山形在来作物研究会会長 江頭宏昌氏

●閉会あいさつ（16:25～16:30）

